

英語	日本語	思考プロセス	講師のコメント
The science is unequivocal	<p>疑う余地がない。</p> <p>科学は明白だ。</p>	<p>IPCC「気候変動に関する政府間パネル」についてのNHK記事の見出しに、「"疑う余地がない"温暖化とどう向き合う？」が書いてある。</p> <p>元のスピーチに「We know, you know, nature is in crisis. The science is unequivocal.」という文脈である。冒頭を「いうまでもなく、自然が危機に瀕している」というふうに訳せる。Merriam-Websterによると、unequivocalとは「leaving no doubt : CLEAR, UNAMBIGUOUS」ということなので、The science is unequivocal」は「もはや真実を否認しない」という意味合いを持っている。そのため、ひねくり回して不自然に「科学」を述べる必要がないと考えられる。という理由で、主語を落として、「疑う余地がない」と言って簡潔にまとめられる。</p> <p>大辞林第三版によって、「余地」とは「②事をなしたり考えたりすることができるだけのゆとり。余裕。「弁解の—がない」「疑いをさしはさむ—もない」。幸いなことに、「疑いをさしはさむ余地がない」という品詞の入れ替えも見つかった。少し長いが。</p> <p>なぜ「余裕」より「余地」の方が使われているのだろう。日本語語感の辞典によると、「余裕」とは「広さ・予算・人数・時間などがぎりぎりの状態でなく余分がある意で、くだけた会話から硬い文章まで幅広く使われる日常の漢語」の一方で、「余地」とは「余っている場所、ゆとりの意で、やや改まった文章に用いられる漢語」であるらしい。なるほど、「余裕」は主にポジティブな意味で用いられている。</p> <p>そうかといって、「明白」は「unequivocal」の適切な訳だとも言えるだろう。旺文社国語辞典第十一版によると、「明白」とは「疑う余地のないほどはっきりしていること。また、そのさま。「—な証拠」である。「疑う余地がない」が定義に入っているため、ほぼ同意語だと考えられる。従って、話者が同じことを何度も繰り返しているなら、「疑う余地がない」と「明白」を連続で言ってもいい。</p> <p>明白もちゃんと環境問題に関する組織の報告書に出ている。例：認定NPO法人環境文明</p>	<p>環境省が使っているのをそれを引用していると推測されます。</p> <p>うーん、科学的根拠の有無が大事なので、科学は落としてはまずいでしょうね。説得力の度合いが違います。</p> <p>本来であれば、これが完全かつ日本語らしい表現（特に『さしはさむ』）</p> <p>そうですね、肯定的な表現です</p>

deadly lock-step	very good ○○が▲▲とは破滅的な連動をしている	<p>lock-stepというのは足並みのことなのだが、報道では足並みを別の意で用いられているようだ。</p> <p>旺文社国語辞典第十一版によると、足並みとは「① 多人数で歩くときの足のそろいぐあい。歩調。「—をそろえて歩く」 ② 多くの人々の考えや行動のそろいぐあい。「野党の—が乱れる」」。原文の文脈の「all crises are moving together and approaching the same cruel fate」の意味合いとは異なっている。</p> <p>lock-stepを連動と訳せる。例：日経の記事 同じ辞書によると、「連動」とは「ある部分を動かすと、それに応じて他の部分も動くこと。「物価に—する年金額」」のため、ある危機の変動によって別の機器が同じ方向に進むという概念に近い。</p> <p>やや冗長的では？</p> <p>国立国語研究所によると、「密接な連動」と言う言い回しを見つけた。これは元の意味と近いが、「deadly」の概念が含まれていない。 例：国内状況と国際状況の関係について、姉崎は「国際的無政府の状態を今日のままにしておけば、何れの国も常に外からの威嚇を感じて、国内に於ける文化の健全な発達を計る事は出来ない」と、その密接な連動関係の説明を加えている。</p> <p>deadlyを致命的、命に関わるような、と言うふうに訳せる。でも、環境省のレポートでは、「致命的な」がよく「影響」や「被害」とセットになっている。</p> <p>別の日経の記事に「破滅的」という言い回しもあった。コーパスには例文が多く、環境問題をめぐる報道にもよく使われているようだ。例：IPCC第3作業部会報告書の発表に寄せるアントニオ・グテレス国連事務総長ビデオ・メッセージ</p>	
unbalanced relationship	一方的な関係	<p>主に恋愛関係の場面でよく耳に入る言葉。</p> <p>日本語だと、悪い関係を表す表現といえば、「ギクシャク」、「折り合いが悪い」がピンとくる。だが、どれもバランスが偏っている関係を表していない。</p> <p>「釣り合う」はto be balancedの意味を持っているが、「釣り合わない」は必ずしもunbalancedの意味だとは限らない。何なら、例えば「釣り合わないカップル」、「mismatchedという訳の方が相応しい。なるほど！</p> <p>精選版日本国語大辞典によると、「一方的」とは「① かかわり方が、双方のやりとりではなく、ある一方から他方へと一方向だけにかたよっているさま。② 相手のことを考えないで、自分だけの都合でものごとを図るさま。」 原文のニュアンスと一番近い表現だと考えられる。私たち人間はいつも自分の利益を考えて、自然の資源を使い尽くしている。 自然資源</p> <p>complicated relationship は「錯綜した関係」か「複雑な関係」という言い回しがある。 例：タリバンとアルカイダの関係を上げるBBC NEWS JAPAN BBCの日本語は語感がずれている場合も多いので、要注意。</p>	

少し堅い表現ですが、『不均衡な関係』

equivocate	<p>うやむやもそういう意味では意図の有無は明確ではないですが、逆に言えば意図が示唆されているとも解釈できるのは。</p> <p>うやむやも本来は有耶無耶、四字熟語です。</p> <p>very good うやむやにする</p>	<p>Cambridge Dictionary によると、equivocateとは「to speak in a way that is intentionally not clear and confusing to other people, especially to hide the truth」と言うことだ。</p> <p>「言を左右にする」と言う言い回しがあるが、ニュアンスが違うそう。大辞林第三版によると、これは「はっきりしたことを言わない。あいまいな返答をする。言を左右に託する。」という意味を持っているため、intentionallyの要素がなかなか見られない。</p> <p>「不明瞭」と言う類語もあるが、この言葉は大体「発音が不明瞭」という場合に用いられているので不適切だと考えられる。他にも用例は？</p> <p>「うやむや」という表現の方が相応しい。国立国語研究所のコーパスで検索したら、「うやむやにする」という結果が圧倒的に多かった。旺文社国語辞典第十一版によると、「うやむや」とは「「有るか無いか」の意から）物事がはっきりしないままであるさま。あいまい。「話を一にする」ということで、確かに志向性が明確に表されていないが、用例からすれば、そういう意味で用いられていることが分かる。環境問題についてもこう言うふうに使われているそう。例：情報教養誌と名乗る月刊BAN</p> <p>要は、毅然としてある事柄に向かうべきだ、という話者の伝えたいこと。何かしらの四字熟語を使って、真摯に問題に向き合う意味をより優雅に表す手もある。が、環境問題の記事にあまり出ていないため、日常的な表現の方が望ましい。</p>	
with scrutiny along the way	<p>very good 吟味しながら</p>	<p>「This means concrete, specific numbers starting now, with scrutiny along the way as to how we're doing」という文脈からすれば、「scrutiny」とは慎重な注意という意味。</p> <p>日本語語感の辞典によると、吟味とは「「内容や性質などをよく調べる意で、会話にも文章にも使われる古風な漢語」<品質を慎重に吟味する>」</p> <p>類語である検討という言葉は「さまざまな面から詳しく調べて考える意で、会話にも文章にも使われる漢語。」</p> <p>よって、もう何かの過程に入っている場合、「検討」を使わない。検討だと、「他の選択肢を検討」のような意味になるので、何かを決めた上で念入りに行う場合には、吟味の方が相応しいと考えられる。</p> <p>品詞の入れ替えとしては、国立国語研究所のコーパスによると、「吟味が必要」という結果が多々ある。</p>	

landscapes and seascapes	<p>日本語のランドスケープは本来は意味がもっと狭いですね。生態系・生物多様性の世界では定着した表現なので、カタカナでシースケープランドスケープでも妥当とも考えられます。</p> <p>やや物足りない 景観</p>	<p>スピーチ中のparallelismを保った言い方が一番良い。通訳だから骨子を伝えさえすれば大丈夫だとされているが、「landscapes and seascapes」が昨今コロケーションされるようになったため、似たような言葉を使うべきだと思う。</p> <p>「シースケープ」という言葉が存在しないため、ランドスケープも使うまい。</p> <p>大辞林第三版によると、「地形」とは地表の形態。高低・起伏などのありさま。海水面上の陸上地形、海水面下の海底地形に大別する。地貌。「築城に適した―」「複雑な―を示す」]</p> <p>海形という言葉もある。大辞林第三版によると、海形とは「海上の景色の模型。」ということだが、コーパスには載っていない。しかも、元々の意味合いと少し違う。</p> <p>landscapeには色々なニュアンスが入っている。Cambridge Dictionaryによると、landscapeとは「a large area of land, especially in relation to its appearance」。地形ばかりでなく、その風景にも力点が置かれている。seascapeもそう。「The concept of seascape, which initially refers to an image or view of the sea, or a view of an expanse of the sea (Oxford English Dictionary), has been expanded to refer to the entire coastal landscape, as well as adjacent open water areas, including views from land to sea, from sea to land and along the coast.」(造園の雑誌)</p> <p>よって、単に「海景」ではない。</p> <p>景観という言葉もある。 新明解国語辞典第七版によると、それは「㊦ 見るだけの価値を持った、特色の有る景色。㊧ その地域の野外風景のうち、山・川・湖沼・森林など自然が形成する「自然景観」と、人間の営みの加わった集落・耕地・交通路など「文化景観」の称。」 環境省の出した環境影響評価によると、景観とは「地域の地形風土・人の営み・歴史的時間の現れ」 景観訴訟について説明した「研究ノート」によれば、名古屋地決四観音道高架道路工事差止仮処分訴訟が「景観の定義の広汎性、不明確性、個々人の主観性による統一的な利益・意見の観念し難さ」という理由で敗訴した。なるほど</p> <p>この「広汎性」を活かして、敢えてsceneryと訳しがちな「景観」を「landscapes and seascapes」の訳してもいいと考えられる。例：上記のアントニオ・グテーレスのスピーチ</p> <p>関する言葉としては、景観破壊を挙げられる。例：NPO法人空家空地管理センター 関連語では</p>
-----------------------------	---	---

unbridled		これは他にも無制限、歯止めの効かないなど色々ありそうです。	野放図	<p>大辞林第三版によると、「①慣習や規則にしばられることなく、勝手気ままにふるまうこと。また、そのさま。傍若無人。「一な奴(やつ)」「一に育つ」②際限のないこと。しまりのないこと。また、そのさま。「雑草が一に広がる」「一な生活」</p> <p>主に気ままで何かを良いことにし利用する場合に用いられている。例:科学の進捗についての抜粋 例:日本自然保護協会</p> <p>語源を忘れるべきではない。馬についての議論であれば、馬のくつわが外しているということを行っている。</p> <p>類語としては身勝手が挙げられる。大辞林第三版によると、身勝手とは「他人の迷惑をかえりみず自分の都合だけで行動したり、考えたりすること(さま)。自分勝手。「一な意見」「一過ぎるやり方」「一は許されない」。</p> <p>「気まま」ではなく、その「自分の利益だけしか考えない」という態度を強調している。例:朝日新聞</p>		
drivers of nature loss		主な原因という意味に絞っていいものか要検討。原因と言い切ってしまうと。	自然破壊の大要因	<p>精選版日本国語大辞典によると、要因とは「事物・事件が成立または発現するときに、直接にその原因または条件となる要素。物事の成立に必要な原因。」driversには勢いというニュアンスがあるので、「主要な原因」という意味に近い。</p> <p>それを強調するために、「大」を前に接続できる。例:国際機関:加盟国へのブリーフィング</p> <p>新明解国語辞典第七版によれば、原因とは「ある物事や状態をひき起こすもとなった△もの」であるため、複数の原因があるならいかに重要な点で優劣をつけるか分からない。</p>		
resounding support		大いに、は自分から他人に賛同する場合に妥当で、この文脈では逆なので、語感がずれます。	<p>?</p> <p>大いに賛同する</p> <p>強く賛同をいただく</p>	<p>日本語語感の辞典によると、「賛同」とは「他人の意見に賛意を表する意で、改まった会話や文章に用いられる漢語<賛同を求める><大方の賛同を得る><大いに賛同する>」</p> <p>賛成とは「他の意見や行動に同意する(後略)」</p> <p>同意とは「他人の意見や行動に賛成し承諾する(後略)」「すでに同意を得ている」</p> <p>文脈からすれば、別に「承諾」を求めている。その上、賛同の方が他人の意見を積極的に賛成するニュアンスがある、「賛同」が意味的には一番近いと考えられる。</p> <p>resoundingほどの「響き」というニュアンスが含まれていないが、用例のところにあった「大いに賛同する」が適切だと言える。</p> <p>名詞の使い方としては、「強く賛同をいただく」が堅苦しい場面で使ったことがある。例:国際機関(安全保障理事会) 直訳したのでしょね。</p>		

強く賛同＝コロケーションに違和感あります。
強力な支持、はどうでしょう。

同感です、違和感があります。推測としては直訳です。

once-in-a-generation opportunity	一世代に一度の機会 千載一遇のチャンス	<p>「一世代に一度」という表現にはいささかの違和感を感じているが、「一世代に一度の世界的な生活費の危機が広がり、ウクライナでの戦争によって加速しています」というふう に実際に日本の報道で用いられている。例：国際機関（第77回国連総会）</p> <p>新明解四字熟語辞典によると、「一世一代」とは「一生のうちにたった一度のこと。一生に 二度とないような重大なこと。また、ふだんと違い際立ったことをすること。もと役者など が引退するとき、演じ納めとして最後に得意の芸を演ずることをいう。▽「一世」「一代」は ともに人の一生をいう。「世」は「せい」とも読む。句例：一世一代の大仕事、一世一代の 晴れ姿（後略）」</p> <p>人の一生ぐらいの長さなのでgenerationより期間が長い。しかも、国際機関のサイトでの 普通の検索では結果がない。</p> <p>とてもいい表現ですが、ちょっと大袈裟かもしれません。</p> <p>上記の辞書によると、「千載一遇」とは「滅多に訪れそうもないよい機会。二度と来ないか もしれないほど恵まれた状態。▽「載」は「年」に同じ。「一遇」は一度出会う。「遇」は思い がけず出くわす。千年に一度偶然訪れるぐらいの機会という意味。（中略）句例：千載一 遇のチャンスを逃す。（後略）」</p> <p>この句例も実際に「温暖化イメージ戦争の時代を生きる」という見出しのコラムに出た（国 立環境研究所 地球環境研究センター）。</p> <p>結論としては、once in a generation という30年～40年の期間をうまく表したのが「一世 代に一度」である上に、報道ではよく用いられているため、こちらの方が相応しいと考え られる。</p> <p>使い方が慣例化している場合は、確かにその方が適切です。</p>
----------------------------------	------------------------	---

大いに、の語感の理解だけずれていますが、あとは深みのある優れた考察です。
日本留学の記念に宝にしてください。A